

十和田カルデラから噴出したテフラ群 Tephra group ejected from Towada caldera

十和田カルデラを給源とするテフラ群の層序は大池(1972)によってまとめられ、Hayakawa(1985)によって再検討された。更新世末期に噴出した十和田八戸テフラ(To-HP)と完新世のテフラ群は東北地方北部の対比と編年に有効な時間示標層として利用されてきた。主要なものは、下位から十和田二の倉テフラ(To-Nk)、十和田南部テフラ(To-Nb)、十和田中振テフラ(To-Cu)、十和田bテフラ(To-b)、十和田aテフラ(To-a)である。十和田八戸テフラ(To-HP)、十和田中振テフラ、および十和田aテフラの3テフラは巨大噴火によってもたらされ、分布域も広い。

十和田八戸テフラ(To-HP)と完新世テフラ群は、十和田カルデラ東麓の新郷村二の倉ダム一帯で模式的に見られたが、近年の道路工事によってほとんどの露頭がコンクリートで被覆されてしまった。写真の二の倉ダムの有名な露頭もすっかり覆われてしまい、いまでは見るができなくなった。

引用文献

Hayakawa, Y. 1985. Pyroclastic geology of Towada volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute University of Tokyo 60: 507-592.

大池昭二, 1972. 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究 11: 228-235.

(辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)



図1 新郷村二の倉ダム上の八戸火砕流堆積物とその後の降下テフラ群。最上の白色軽石は十和田中振テフラ。



図2 新郷村羽井内での八戸火砕流堆積物とその後の降下テフラ群。最上の白色軽石は十和田中振テフラ。



図3 新郷村羽井内での八戸火砕流堆積物を刻む谷を埋積する降下テフラ群。